

ほ場整備事業における農村伝承文化の情報収集とその活用

— 兵庫県大日川東地区の事例から —

兵庫県淡路県民局洲本土改良事務所 瓜生 隆宏

1 はじめに

ほ場整備の計画策定において、計画地域の現況調査は最初に行う作業である。現況調査の項目は自然条件、土地基盤状況、社会経済状況、農家の意向など多岐にわたる。一方、近年、農業農村整備の目的が生産基盤整備だけでなく、地域整備としての色合いが増してきている。このような状況の中で、現況調査の項目のひとつとして、計画地域を構成してきた一要素としての農村伝承文化は、重要な意味合いを持っているといえる。

本稿では、淡路島の新規ほ場整備大日川東地区を一事例として、いままであまり意識されてこなかった農村伝承文化が、他の調査項目と密接な関連があることを例示し、農村伝承文化の収集方法と事業実施における活用について述べる。



図1 地区位置図

2 地区の概要

本地区は、淡路島の三原平野の南部に位置し、三原川水系大日川の扇状地に広がる約93haの区域である。温暖な気候と肥沃な土壤に恵まれ野菜栽培が盛んで、玉葱、白菜、レタス、キャベツ等の露地野菜の主産地である。平成14年度に農林水産省の国庫補助事業の採択を受け、総事業費23億円で平成20年度までの工期で工事を行う予定である。

3 計画策定に当たっての現況調査項目

ほ場整備を行う上で必要な現況調査項目は以下のものが考えられる。①地理情報、②地質情報、③気象情報、④水利情報、⑤農業情報、⑥地域開発情報、⑦生物情報、⑧文化財情報、⑨人的情報。このうち「農村伝承文化」と深く関わるのは、⑧、⑨の項目である。従来の計画基準では⑧、⑨の項目は、文化財の分布に関する資料の収集、聞き取り調査といった項目で表現されている。しかし、その範囲は伝承文化までは及んでいないと思われる。

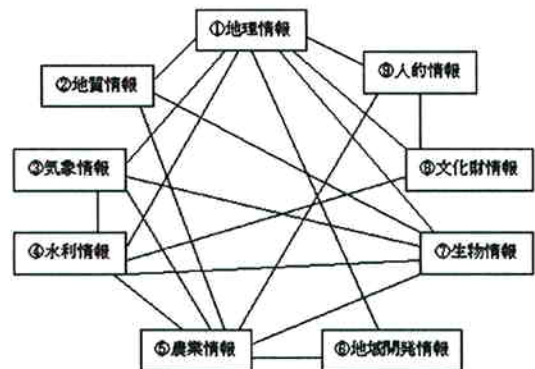


図2 現況調査項目の相互関連

4 現況調査項目の相互関連とその一例

上記①から⑨までの情報の相互関連について図2に整理した。情報の相互関連は、個々の情報を補完し、検証するのに有意義である。

以下に、大日川東地区の事例から⑧、⑨の項目が他の調査項目と深く関わりを持つことを例示する。本地区は、大日川の扇状地を開けた地区である。用水源として古くから扇状地の末端に多くある湧水を利用している。文化財情報としての小字名と水利情報との関連を調べてみた。

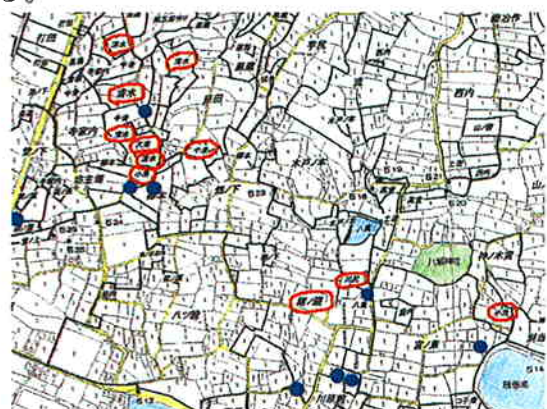


図3 小字名と湧水地位置図

この地区では「清水」「大泉」「小泉」「猪ノ頭」「川尻」といった湧水に起因すると思われる小字名（図3の丸囲いの地名）が多くみられた。図3で●を記したのが実際の湧水地であるが、これらの小字名の分布と湧水地はみごとに一致した。また、湧水地の位置だけでなく、用水源や水利系統までも類推することが出来た。

5 事業実施における展開

現在も「筒井の清水」として湧水が年間にわたり湧き出ている箇所がある。（写真1参照）ここの大字は「筒井」であるが、地元の聞き取りによると、湧水が多いことが筒井の地名に由来するという。さらに、ここから東へ6 kmほど離れた論鶴羽山頂にある「論鶴羽神社」の石碑に「筒井」の地名が見受けられる。これは、「北門板碑」と呼ばれ室町時代に作られたと伝えられる砂岩の石碑である。このことから、この集落の歴史は室町時代まで遡ることが出来る。また、地区内にはいくつかの石造物がある。写真2は、「四国西国・秩父板東供養塔」と刻まれたもので、年号は宝暦十三癸年（西暦1763年）とある。地元の聞き取りによると横の道は四国と本州をつなぐ「福良みち」であったという。これらのことから、この碑は江戸時代に盛んに行われた、四国・西国・秩父・板東巡礼の供養と安全を願った石碑であることがうかがわれる。



写真1 筒井清水の現状



写真2 四国西国・板東秩父供養塔

このように、記録に残された農村伝承文化を入念に調べることにより、このような集落の歴史がわかったのである。しかし、残念ながら地元の人で関心のある人は少ない。そこで今回のほ場整備事業の中で、「筒井の清水」については、地域の人により親しまれるよう地元の人々とワークショップを開催し、親水護岸・せせらぎ水路として整備する予定である。石造物については区画割の際に、道路法面敷きに配置できるように区画割を調整し保存することにした。

6 まとめ

- (1) ほ場整備の計画策定においては当該地域の既存の情報を利用するが、情報相互の関連性や地域の住民から得られる情報に留意するとその確実性が向上し、新たな展開を得ることがある。
- (2) 農村伝承文化は地元の人々の記憶からも忘れ去られていることもあるので、事業化の際に既存資料を調査して、地域おこしにつなげることを考慮する。
- (3) ほ場整備を行う際には、地域文化財としての民俗資料（特に失われがちな石造物や小字など）は地域の遺産として何らかの形で保存するのが望ましい。

[主な参考文献・参考資料]

土地改良事業計画設計基準 計画 ほ場整備(水田)／農林水産省構造改善局計画部資源課／2000.1／農業土木学会
地名の研究／柳田國男／1935 地名の語源／鏡味明克／1977／角川書店
民俗調査ハンドブック／上野和男ほか／1974／吉川弘文館
埋蔵文化財分布調査実績報告書／1995,2000,2001／南淡町教育委員会
三原郡史／三原郡史編纂委員会／1979
淡路島の地名研究／武田信一／1996／兵庫県地名研究会
農村伝承文化資源の機能と活用／2002／山下裕作／農業工学研究所農村計画部
農村アメニティの実現に向けて／瓜生隆宏／1991／農業土木学会農村計画部会
国土地理院地形図 南淡町都市計画図